

# 同窓会会報

熊本大学医学部保健学科

創刊号 2005年1月

## 特集 同窓会発足



熊本大学医学部保健学科同窓会設立総会後の記念写真（平成16年7月30日）

目次	同窓会会長あいさつ……………	1
	熊本大学学長あいさつ……………	1
	保健学科長あいさつ……………	2
	各学科同窓会会長あいさつ……………	3
	保健学科各専攻の紹介……………	5
	同窓会設立総会……………	6
	学生理事からの言葉……………	7
	同窓会会則・細則……………	8
	同窓会役員……………	9
	編集後記……………	9



## 熊本大学医学部保健学科同窓会の発展を願って

保健学科同窓会会長 荒木 不次男

(熊本大学医学部保健学科・放射線技術科学専攻)

平成 15 年 10 月 1 日に医療技術短期大学部と教育学部特別教科（看護）教員養成課程が統合再編され、熊本大学医学部保健学科が設置されました。翌年 4 月には、新設の保健学科に新入生が 1 期生として入学しております。この間、医療技術短期大学部としての 27 年間の歳月、それ以前の医学部附属看護学校から振り返りますと何と 106 年間の長い歳月、医学部附属エックス線技師学校と医学部附属衛生検査技師学校では約 40 年間の歳月が経過しており、ようやく「保健学科誕生」という感慨深いものがあります。この間の道のりは長く険しいものでありましたが、看護学、放射線技術科学、検査技術科学、そして助産学という近代医学の中で発展してきた医療技術学が、学問として体系化されてきた歳月であったと思います。また、これまでの同窓会は、学校・学科単位あるいは取得ライセンス単位でのそれぞれ独自の活動組織であり、会員の先細りを危惧するところもありました。

保健学科同窓会は、保健学科 1 期生の入学を機に、保健学科の前身である医療技術短期大学部（専攻科助産学特別専攻を含む）をはじめ、医学部附属看護学校、医学部附属助産婦学校、医学部附属エックス線技師学校、医学部附属診療放射線技師学校、医学部附属衛生検査技師学校、医学部附属臨床検査技師学校の各学科単位同窓会組織を一つの大きな組織としてまとめ、会員相互の親睦を図ると共に、保健学科の教育支援と発展に寄与することを目的に平成 16 年 7 月 30 日の保健学科同窓会設立総会において正式に発足しました。役員（別に記載）は旧各学科の同窓会会長と保健学科教員を中心に組織し、理事の中には「学生理事」として保健学科新入生 5 名にも参画していただきました。船出したばかりの「保健学科同窓会」ですが、近い将来、医療社会の中で本学の卒業生が多数活躍することを期待し、人材育成を支援していく組織として、また卒業生の心の拠り所になるべく「保健学科同窓会」を会員の皆様とともに発展させて行きたいと考えております。



## 保健学科同窓会と 熊本大学同窓会連合会の発足を祝して

熊本大学長 崎 元 達 郎

まず、最初に保健学科(医療技術短期大学部)同窓会の誕生を心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

昨年 9 月に各学部等の同窓会長の皆様にお集まりいただき、熊本大学各同窓会の連携の在り方に関する議論を開始しました。その時は短期大学部看護学科同窓会会長の永田まなみ先生にご出席頂き、他の 2 学科を含めた同窓会を組織することを優先し、その後、同窓会連合会に参加することを考えたいとのご意向をお話いただきました。

同窓会連合会はその後何度かの設立準備委員会を経た後、各同窓会総会（理事会）のご承認を得て本年（平成 16 年）10 月 9 日に設立され、設立総会を開催することができました。

大変良かったことは、この 1 年の間に永田先生はじめ短大関係の皆様のご努力で 3 学科一緒の保健学科同窓会

として参加いただけたことです。このように、各学部同窓会の連合会を作ることが、保健学科同窓会をつくるきっかけにもなったことは、大変喜ばしいことでした。

同窓会連合会は学部を越えた同窓会組織として横断的な活動や同窓会支部組織作りを支援し、同窓生相互の交流と親睦を深めるとともに熊本大学と同窓生の情報交換や連携協力を緊密にし、熊本大学の発展と学術の振興に貢献することを目的としています。具体的には、他学部の卒業生の消息確認が可能となるので、学部を超えた卒業生同士の連携を図ったり、熊本大学の種々の活動に関する情報発信や求人・求職の連絡窓口になったり、熊本大学の運営や教育に対するアドバイスをいただいたりできる等々が期待されます。

同窓会連合会は、各学部等の同窓会（個人でない）を会員とし、各同窓会の会長、役員の中から会長、副会長、幹事長、幹事を選出し、総会を構成します。実質の運営は、幹事会が行い、事務局は当面、大学本部の総務部に置くことにしました。10月9日の設立総会では、会長に園田頼和工業会会長が、保健学科同窓会からは、荒木不次男会長が会計監事に、永田まなみ先生が幹事に選出されました。

私、学長は名誉会長に推挙されました。また、今年度は残り少ないので多くの事業をすることができませんが、事業のひとつとして東京リエゾンオフィスの支援をしていただくことになりました。ご存じのごとく多くの卒業生の皆様に参与として田町のリエゾンオフィスをベースに活動していただいています。これらの皆様の活動資金をご支援いただけるわけで、大学としても大変有り難く存じています。

以上、同窓会連合会のことについてご報告申し上げましたが、保健学科同窓会もその一員としてご活躍いただきますようお願いいたします。

ところで、今年4月に1年生を迎えた保健学科も学年が進みますので来年、再来年にかけて校舎を整備せねばならないと考えていますし、最初の4年生卒業生が誕生するまでには、大学院整備の可能性も検討されることになります。卒業生の皆様には、今まで以上に母校と連絡を密にとっていただき、母校が立派に成長し、優秀な後輩を送り出すことができますようご支援頂きますことをお願いしたいと思います。なにとぞよろしくお願い致します。

最後に、保健学科同窓会の発足にご尽力頂きました教職員、同窓生の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 保健学科同窓会設立にあたって

熊本大学医学部保健学科長

**木原信市**

(看護学専攻 臨床看護学講座 教授)

平成15年10月1日、医療技術短期大学部と教育学部特別教科（看護）教員養成課程が統合し、熊本大学医学部に保健学科が新設されました。平成16年4月から第一回生を迎え入れ、教職員一同、緊張感と期待をもって日夜、教育に励んでおります。

ご存知のように、医療技術短期大学部は前身の医学部各附属学校を母体として昭和51年に設置され、また特別教科（看護）教員養成課程は昭和41年に熊本大学教育学部に新設され、両施設とも長い歴史の中で多くの医療従事者や教育者を社会に送り出してきました。しかし、近年の急速な疾病構造の変化、健康意識の高まりなどの社会状況の変化に伴い、豊かな人間性、高度な知識はもとより、人間を取り巻く社会環境を包

括的にとらえ、様々な人々との連携を確立する能力を備え、国際的に活躍できる感覚を持つ医療専門職や教育者の育成が求められるようになってきました。保健学科は、このような社会的要請に応えるべく、広く社会に貢献できる資質の高い医療専門職者および教育研究者を育成することを基本理念として新設されました。

医療技術短期大学部や前身の医学部各附属学校には、これまで各ライセンスごとの同窓会があり、それぞれ意義のある活動を実施しておられることを聞き及んでおります。このたびの保健学科の設立とともに、各同窓会のご賛同を得て大同団結した保健学科同窓会が発足する運びとなりましたことは、チーム医療の観点からもたいへん喜ばしいものと思います。保健学科同窓会を通じて同窓生の皆様が連携し、多くの面で意義のある同窓会に育っていくことを願っております。また、保健学科同窓会が学生達を支援して下さることで、教育環境の改善や奨学制度の基金の設立などが実現いたしますことを期待しております。

最後に、熊本大学医学部保健学科同窓会の発足を祝賀し、新たな同窓会の成長と同窓生の皆様のご発展を心より願ってご挨拶いたします。

## 熊本大学医学部保健学科同窓会 設立を祝して

熊本大学医学部附属看護・助産婦学校同窓会  
副会長 **高宗 和子** (医学部附属看護学校 昭和42年卒)

熊本大学医学部保健学科同窓会設立おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。私どもの同窓会会長は、昭和13年卒業(第55回生)の甲斐ユキエですが、祝辞を一任されましたので、変わって、寄稿させていただきます。

医学部保健学科同窓会準備委員会より、正会員として参加依頼のお話がありましたのは、16年の1月頃だったと思います。これは同窓生個人の加入ではなく、今までの同窓会組織は何ら変わることなく、新たに医学部保健学科同窓会として一つの組織に纏めるという事でした。既に、熊本大学医学部附属看護・助産婦学校第27回同窓会総会(平成15年11月9日)が終わった後でしたので、4月の同窓会役員会で検討し、賛成多数で参加することが決まりました。

看護学校の歴史は古く、昭和54年に熊本大学医学部附属看護・助産婦学校が発行しています「創立80年誌」には、明治31年(1898年)私立熊本病院に看護学講習科として発足する、とあります。明治35年には産婆講習科が設けられています。大正5年には私立医学専門学校附属医院看護婦養成所と改称、大正

10年熊本県指定、昭和13年熊本医科大学附属医院看護婦養成所と改称、20年熊本医科大学附属医院厚生女学部と改称、24年熊本大学医学部附属厚生女学部と改称、26年熊本大学医学部附属看護学校と改称しています。27年には熊本大学医学部附属看護学校助産婦養成科が発足しています。

そして、51年熊本大学医療技術短期大学部看護学科が発足し、54年医学部附属看護学校は閉校となりました。さらに、平成15年10月には熊本大学医学部保健学科が設置され、16年4月から1年生が入学しています。

時代の流れとともに学校名は発展的に改称されましたが、明治31年の看護学講習科開講以来106年、看護・助産教育の理念は今も引き継がれ、これからも保健学科の看護学生さんにもきっと引き継がれていくことを信じています。

医学部附属看護・助産婦看護学校同窓会総会は2年毎に開催され、来年は28回目となります。会報は2年毎、名簿も4年毎に発行しております。昨年の同窓会総会には90歳以上の方2名の参加があり、元気ももらい盛会でした。

今、医療看護を取り巻く状況は厳しいものがあります。それだからこそ私達は同窓生としての誇りを持ち、常に質の高い看護を提供するために努力していきたいと思っています。

保健学科同窓会設立に当たり、理事として昭和 51 年卒業 樋本和代、幹事として昭和 42 年卒業 田中紀美子が協力することになりました。

熊本大学医学部保健学科同窓会活動がますます発展していきますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 熊本大学医学部保健学科同窓会 設立に寄せて

熊放会

会長 勝田 昇 (熊本大学医学部附属診療放射線技師学校 昭和 53 年卒)

はじめに、熊本大学医学部保健学科設立および同窓会設立にご尽力いただきました皆様に対しまして、診療放射線技術学科同窓生を代表して御礼申し上げます。

さて、この 30 年間の放射線医療の分野での X 線 CT をはじめとする D S A 装置 (造影)、S P E C T (核医学)、F C R (一般撮影)、M R I など新しいモダリティの出現ならびに検査、治療技術の進歩には目を見張るものがあります。これら医療技術の進歩に対応した、我々コメディカルの教育の歴史においても今回の保健学科設立というひとつの目標が達成されたことはとても意味深いものがあります。

本同窓会も昭和 40 年 4 月に母体であります熊本大学医学部附属診療エックス線技師学校の開校に始まり、放射線医療技術の進歩や診療エックス線技師法の改正にともない、昭和 44 年 4 月より 3 年制の熊本大学医学部附属診療放射線技師学校 (以下放射線技師学校) へ、さらには昭和 53 年 4 月より熊本大学医療技術短期大学部診療放射線技術学科 (以下医短放射) の設置へと引き継がれました。医療技術短期大学部への昇格にともない、昭和 55 年 3 月には 15 年の歴史を持つ技師学校は最後の卒業生 (1 期～13 期 224 名) をもって発展的閉校となりました。同時に医療技術短期大学部への昇格の祝いと技師学校の閉校を記念して同窓生をはじめ技師学校、医療技術短期大学部の関係者をお招きして閉校記念パーティーを開催したことを思い出します。同窓生数も平成 16 年 3 月の卒業生を

もって現在 1,100 名余りを有するまでになりました。

最後に、保健学科設立および 3 学科合同同窓会設立を祝いますと同時に、これからのますますのご発展ご活躍を願ってご挨拶とさせていただきますと思います。

## 同窓会の更なる発展を期待

熊究会

会長 石原 隆一 (熊本大学医療技術短期大学部衛生技術学科 昭和 55 年卒)

熊本大学保健学科の前身である医療技術短期大学部 (以下医技短) を卒業し、早 20 数年が経過してしまいました。月日の過ぎるのは早いもので、私が所属していました医技短の衛生技術学科も時代とともに変わってまいりました。当初の熊本大学医学部附属衛生検査技師学校から附属臨床検査技師学校を経て医技短・衛生技術学科となり、そして現在の熊本大学保健学科・検査技術科専攻に至っています。当初からの卒業生は 1,200 余名を数えます。これをさらに、看護科、放射線科合同となると、5,000 名近くの卒業生を輩出しているものと推察されます。

今、チーム医療という言葉をよく耳にしますが、様々な立場から医療を捉え、患者様へより良い医療サービスを提供するためには、我々コ・メディカルの連携は必須であります。このたびの保健学科同窓会の発足により、看護師・診療放射線技師・臨床検査技師の医療従事者としての更なる連携が期待されます。また、懇親会などを通じての情報交換などにより、これまで以上にクラス会のように親しみやすい集まりになればいいなとも感じています。

これからの本同窓会をいかなる形にしていくかは、卒業生と在校生の共同作業だといえます。まさに、ここでもチームを組んで、保健学科同窓会を活発な実りのある会にしていきたいものです。今後とも、同窓会に対する皆様の積極的なご意見やご参加をどうかよろしくお願いいたします。

## 保健学科の紹介

医学部保健学科には、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻の三専攻があります。当学科は、豊かな人間性と教養に基づく高度な専門知識と優れた技能を備え、チーム医療の一員として信頼され広く社会に貢献できる医療者・研究者・教育者を育成します。

### ◆看護学専攻

看護学専攻では、看護師、保健師、助産師並びに高等学校の看護教員の養成を目的としています。人々の健康や福祉の向上を目指す看護の社会的機能を十分担い得る看護実践能力を育みます。そして情報化が進行する社会・医療の中で看護専門職として貢献し、地域に密着した看護活動ができるよう教育します。さらに、国際的視野で活躍でき、生涯にわたって知的探究心を培う自主・自律的な人材を育成します。

### ◆放射線技術科学専攻

放射線技術科学専攻では、放射線を利用した医療機器の安全管理、診断に必要な医療画像の提供、正確な治療計画に基づく放射線治療を可能とする医療技術を教育・研究します。昨今では、非放射線である磁気、電磁波、超音波などの物理現象を医療に応用する技術が進歩しています。また、疾病の早期発見や早期治療にはコンピュータ技術に支えられた医療情報処理が不可欠となっていますので、これらに関連した教育研究も行います。

### ◆検査技術科学専攻

検査技術科学専攻では、病気の診断治療・健康状態の把握に必要な検査を行う臨床検査技師を育成すると同時に、医療・医学に関連した検査技術の研究開発能力を備えた研究・教育者を育成します。このため、人体の構造・仕組み、疾患に関わる医学的知識、病気の診断に必要な臨床検査の知識・技術を教育・研究します。さらに、急速な発展をとげている細胞工学・遺伝子工学的手法、情報処理技術を用いた検査技術などの様々な分野に適合し得る能力も育成します。

### 【看護学専攻】

#### 基礎看護学講座

教授：森田敏子、蔦川忠久  
講師：木子莉瑛、永田まなみ  
助手：有松 操、南家貴美代

#### 看護教育学講座

教授：花田妙子  
助教授：角田俊治

#### 臨床看護学講座

教授：木原信市、宇佐美しおり  
助教授：尾山タカ子、谷口まり子、田中紀美子  
助手：柊中智恵子、梅木彰子

#### 母子看護学講座

教授：服部新三郎、田島朝信、山内葉月、宮里邦子  
助教授：田中久美子、坂梨京子  
講師：寺岡祥子  
助手：千場直美

#### 地域看護学講座

教授：上田公代、藤井輝明  
助教授：東 清巳

### 【放射線技術科学専攻】

#### 医用理工学講座

教授：矢田 粲、桂川茂彦、富吉勝美  
助教授：檜垣 強、阿部 誠  
助手：米田哲也、船間芳憲

#### 医用画像学講座

教授：松本政典、尾道三一、佛坂博正  
助教授：吉田日出輝、島村正道  
助手：荒木不次男

### 【検査技術科学専攻】

#### 構造機能解析学講座

教授：石丸靖二、受島敦美、安倍紀一郎  
講師：伊藤雅浩  
助手：橋本弘司

#### 生体情報解析学講座

教授：棚瀬純男、原田幸一  
助教授：石井俊徳、甲木孝人、奥宮敏可  
講師：宮山幸彦  
助手：熊谷エツ子、森 信子

平成 16 年 10 月末現在  
(保健学科ホームページの専攻紹介を参照)  
文責 永田まなみ

## 熊本大学医学部保健学科同窓会設立總會議事録

日 時 平成16年7月30日(金)18:00~19:00  
 場 所 熊本大学医学部楷樹会館研修室(2F)  
 出席者数 92名  
 議 長 橋田昌弘(熊本大学医学部附属病院中央放射線部)

〈總會式次第〉

開会の辞

同窓会設立準備委員会代表挨拶

保健学科長挨拶

議長選出

議事

1. 保健学科同窓会設立の経緯について
2. 保健学科同窓会会則(案)について
3. 保健学科同窓会会計細則(案)について
4. 役員選出について
5. 平成16年度予算(案)について
6. その他(熊本大学同窓会連合会会則(案))

閉会の辞



總會(午後6時~7時)

同窓会設立準備委員の前田氏より開会が告げられ、同窓会設立總會が開会された。

議事に先立ち、同窓会設立準備委員会代表(以下準備委員長)の荒木氏が挨拶を行った。続いて、熊本大学医学部保健学科を代表して木原保健学科長の挨拶があった。引き続き、熊本大学医学部附属病院中央放射線部の橋田技師長を総会議長に選出し、議事に従い6項目の議案審議を行った。

### 1. 保健学科同窓会設立の経緯について

準備委員長が、平成15年10月1日に熊本大学医学部保健学科が設置され、これまで活動してきた熊大

医技短の3学科同窓会の一本化に至る様々な経緯及び目的について報告を行った。

### 2. 保健学科同窓会会則(案)について

準備委員長より、保健学科同窓会会則(案)を資料に、目的や同窓会会員構成等が説明され、同窓会会則(案)は出席者の賛成多数で承認された。

### 3. 保健学科同窓会会計細則(案)について

準備委員長が、保健学科同窓会会計細則(案)を資料に、会費の説明を行った。また、会計細則(案)にある卒業生の寄付金も重要な運営費となるので寄付金の協力に対する依頼もあった。会計細則(案)は出席者の賛成多数で承認された。

### 4. 役員選出について

準備委員会で準備した役員名簿(案)により、会長に準備委員長である短大S56卒診療放射線技術学科の荒木氏が出席者の賛成多数で承認された。

続いて、荒木会長より、副会長に短大S55卒看護学科の永田氏、短大S57卒臨床検査技術学科の前田氏、その他幹事、理事等の役員が発表され、出席者の賛成多数で承認された。

### 5. 平成16年度予算(案)について

終中会計幹事より、平成16年度予算(案)について説明があった。さらに、活動計画が荒木会長より説明された。その中で、出席者より、会員名簿作製の計画に対して、作製時にはプライバシーの保護を第一に考え、注意して

欲しいとの要望があった。平成16年度予算案は、出席者の賛成多数で承認された。



記念懇親会(午後7時~9時)

### 6. その他

熊本大学同窓会連合会会則(案)について、荒木会長より説明があった。

議事録署名人 石原 隆一、前田 浩

## 学生理事からの言葉

### 熊本大学医学部保健学科に入学して

保健学科同窓会理事 看護学専攻  
1年 村山 裕理

私が看護師を目指したのは、高校に入学してすぐの頃でした。母が以前看護師として働いており、仕事の大変さやそれ以上のやりがい、充足感が得られる仕事だというのを聞いて、私も看護師を目指すようになりました。

熊本大学は、保健学科を新設すると知り調べてみると、看護学専攻の教育方針に心打たれて熊本大学入学を希望しました。

希望通り、熊本大学の学生となり、まず初めに感じたことは、学生にとっても活気があるということでした。入学式の後で会場を出た後の部活やサークルの勧誘では、私たち新入生は先輩方の迫力に押され気味で、これから始まる新しい生活に不安を感じると同時に、大きな期待を抱いたのを覚えています。先生方のお話を聞いても期待に胸膨らむばかりでした。

入学してから約半年が経ち、ようやく学校生活にも慣れ、日々はつきりと自覚してきているのは、当然のことですが一つ一つの講義が看護の仕事に直結しているということです。まず今後の目標として、講義で得た知識や技術をしっかりと吸収し自分のものにしていこうと思っています。

私たちの携わろうとしている看護という専門職は、これからますます発展かつ、必要になっていくように思われます。ひいては、この環境の整っている熊本大学で学んだことを活かし、看護という分野を支えていける、立派な人材になりたいと思います。

### 目標に向かって

保健学科同窓会理事 放射線技術科学専攻  
1年 宮崎 吉博

熊本大学医学部保健学科一期生として、この春、放射線技術科学専攻に入学しました。

私が保健学科を受験しようと思ったのは去年の7月です。熊大に保健学科が新設されることはまったく知らず、それまでは特に理由もなく工学部を目指していたのですが、たまたま読んだ予備校の情報誌の新設学科一覧で設置を知りました。ちょうどそのころは、テレビなどでストラやサービス残業といった民間企業の問題がたびたび報道されていたこともあって、企業へ就職することになる工学部への進学に対して意欲が

なくなっていたところでした。また、以前から直接人の役に立てる仕事に就きたいという考えは持っていました。そのようなこともあり、新設を知った瞬間に「こしかない」と感じました。目標が決まってからは勉強も進むようになり、無事合格することができました。

また、今年は母方の祖母の入院や、父方の祖母が亡くなるなど、医療の現場に接する機会が多い年でした。実際の医療の現場を目の当たりにすることで、いろいろ考えさせられることがありました。医療においては技術的なことだけでなく、心の面でも重要な役割があるのだと痛感しました。病院にやってくる患者さんの不安を少しでもやわらげられるような放射線技師になれるよう四年間がんばっていこうと思います。

### 大学生になって

保健学科同窓会理事 検査技術科学専攻  
1年 神原 伸介

僕は今春、医学部保健学科検査技術科学専攻に入学しました。後期が始まり、ようやく大学に慣れ、大学生がとても自由で、恵まれていることを痛感しています。

ある国の将来を占うには、その国の若者を見ればよいという故事があります。深夜にところかまわない絶叫が大学のほうから聞こえたり、早朝に駐車場で寝入っている大学生を見かけたりすると、日本はどうなっていくのかと考えてしまいます。僕もおそらく若者の範疇に入り、あまりできた人間でもないの、声を大にして言えることではないのですが。

でもそのことは所詮杞憂のことかもしれません。大学生の中には、率先してボランティア活動をする人も多し、真剣に何かに打ち込んでいる人も大勢います。彼らだっただけには羽目はずすこともあるでしょう。ただやっぱりそれでいいのかあんたは、と思うような受講態度の学生もいます。結局のところ、僕自身を含めて、大学には色々な学生がいるということです。

大学生になって最もよかったことは、自由に自然でいられることです。必要単位を満たしておけば、アルバイトにいそむなり、サークルにいそむなり、勉強に没頭するなり、一人で引きこもるなり、たいていのことが自由です。だからこそすごく面白い。大学生活を通して自分の人生の幅を広げることが出来ると誰かが言っていたことを実感しています。検査技術科学専攻は忙しいところですが、沢山の事を学びつつ頑張っていきたいと思っています。



# 熊本大学医学部保健学科同窓会会則・細則

## 熊本大学医学部保健学科同窓会会則

### 第1章 総則

- 第1条 本会は、熊本大学医学部保健学科同窓会(以下「本会」という。)と称する。
- 第2条 本会は、事務局を熊本市本荘2丁目2番1号 肥後医育記念館に置く。
- 第3条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その教育の支援と発展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員相互の親睦及び研修に必要な事項
  - 二 母校の教育の支援・発展に関する事項
  - 三 その他必要と認められる事項
- 第5条 本会は、必要に応じて各専攻等を単位とする分科会を置くことができる。
- 2 分科会の設置及び運営に関する事項は、理事会の承認を経て各分科会が定める。

### 第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
    - イ 熊本大学医学部附属看護学校、熊本大学医学部附属助産婦学校、熊本大学医学部附属エックス線技師学校、熊本大学医学部附属診療放射線技師学校、熊本大学医学部附属衛生検査技師学校、熊本大学医学部附属臨床検査技師学校を卒業又は学籍した者
    - ロ 熊本大学医療技術短期大学部を卒業又は学籍した者並びに在籍した者並びに在籍した者並びに在籍した者
    - ハ 熊本大学医学部保健学科(以下「本学科」という)を卒業又は学籍した者並びに在籍した者
  - 二 特別会員
    - イ 本学科教員
    - ロ 本学科及び前項の学校の元教員
    - ハ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員は、会費(終身)として1万円を本学科入学時に納入するものとする。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費、その他の拠出金は返還しないものとする。

### 第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
  - 二 副会長 2名
  - 三 理事 12名(看護6名、衛生3名、放射3名)とする。
  - 四 幹事 6名
  - 五 監査 2名
- 第11条 役員は次の職務を行う。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
  - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行する。
  - 三 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
  - 四 幹事は、本会の実務に当たる。
  - 五 監査は、本会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
  - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
  - 三 理事は、正会員の中から各専攻毎に選出し委嘱する。
  - 四 幹事は、会長が委嘱する。
  - 五 監査は、理事会において正会員の中から推薦し、会長が委嘱する。
- 第13条 役員は、任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 2 補欠による役員は、前任者の残任期間とする。
  - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

### 第4章 名誉会長及び顧問

- 第14条 本会に名誉会長を置き、本学科の学科長を推戴する。
- 第15条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

### 第5章 会議

- 第16条 総会は、原則として毎年1回開催し、次の事項を審議決定する。
- 一 事業及び決算報告
  - 二 事業計画及び予算
  - 三 会則の制定及び改廃
  - 四 役員を選出
  - 五 顧問の推挙
  - 六 その他の必要と認める事項

- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
- 第 17 条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
- 第 18 条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第 19 条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第 20 条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
- 第 21 条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第 22 条 総会は、議事録を作成し、これを保存する。
- 第 23 条 理事会は、会長、副会長、理事及び幹事によって組織する。
- 第 24 条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の 5 分の 2 以上の要求があったときに開催する。
- 第 25 条 理事会は、会長が召集し、議長は会長がこれにあたる。
- 第 26 条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
- 第 27 条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。

#### 第 6 章 会 計

- 第 28 条 本会の経理は、会費及び寄付金、その他の収入を持って充てる。
- 第 29 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日から始まり翌年 3 月 31 日に終わる。

#### 附 則

この会則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

#### 熊本大学医学部保健学科同窓会会計細則

- 1 同窓会費は 1 万円とし、本学科入学時に一括納入することを原則とする。
- 2 本学科同窓会費 1 万円は、同窓会運営費として使用する。ただし、この枠を超えて使用する必要が生じたときは、同窓会理事会の承認を必要とする。
- 3 金融機関への振込手数料は、会員の負担とする。
- 4 幹事代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、担当幹事が通帳・印鑑を管理する。
- 5 同窓会費の徴収は、入学時に行い、徴収後は速やかに同窓会費支払者名簿を作成する。
- 6 会計担当幹事は、会計年度終了時に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 7 本細則の改正は、同窓会総会で行う。

#### 附 則

この会則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

## 同窓会役員

- 名誉会長：木原 信市（熊本大学医学部保健学科長）
- 会 長：荒木不次男（熊大保健学科、診療放射線 S56 卒）
- 副 会 長：永田まなみ（熊大保健学科、看護 S55 卒）
- 前 田 浩（熊本市市民病院、衛生技術 S57 卒）
- 幹 事：看護 3 名 田中紀美子、坂梨京子  
寺岡 祥子（熊大保健学科）
- 検 査 2 名 熊谷エツ子（熊大保健学科）  
石原 隆一  
（熊本医師会検査センター）
- 放 射 1 名 勝田 昇  
（熊大医学部附属病院）
- 会計幹事：柗中智恵子、千場 直美（看護、熊大保健学科）
- 理 事：看護 6 名 櫛本和代、幸 史子（熊大医学部附属病院）、岩瀬由美（鏡町役場福祉課介護保険係）前田和美、村山裕理、吉住奈那子（在学生）
- 検 査 3 名 戸坂雅一（熊大医学部附属病院）  
中村直子（熊大医学部附属動物実験施設）、神原伸介（在学生）
- 放 射 3 名 永末 望（熊大医学部附属病院）  
船間芳憲（熊大保健学科）  
宮崎吉博（在学生）
- 監 事：植川 利之（放射線、熊本市市民病院）  
田中 裕子（看護、自宅）

## 編 集 後 記

保健学科同窓会会報創刊号いかがでしたでしょうか。本文にも在りました様に、私たち、看護師・助産師・検査技師・放射線技師が学んできた学校が 4 年制の大学となり、それぞれの同窓会・同窓生が一丸となり、熊本大学医学部保健学科同窓会を発足いたしました。その新しく誕生した保健学科同窓会が皆様の身近なものとなるよう会報の発行に努めたいと思います。どうか、この会報や保健学科同窓会がますます発展していきますよう、皆様の近況やご意見をお待ちしております。

最後に、保健学科同窓会設立に際し、卒業生の皆様並びに教員の皆様に多大なるご寄付をいただき有難うございました。

保健学科同窓会副会長 前田 浩  
（熊本市立熊本市市民病院中央検査部）